

このニュースは、国土交通記者会、ときわクラブ、TX沿線の各記者クラブ及び報道各社にリリースします。

平成30年6月7日
首都圏新都市鉄道株式会社

つくばエクスプレス中期経営計画(2018～2020年度)を策定

テーマ

堅実な事業運営と次なる飛躍への基礎固め
～地域とともに発展するTXの新たなステージ～

つくばエクスプレス(TX)を運営する首都圏新都市鉄道株式会社(代表取締役社長 柚木 浩一、本社：東京都千代田区)では、2018年度を初年度とする「つくばエクスプレス中期経営計画(2018～2020年度)」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

中期経営計画の背景及び概要

当社は、平成17年の鉄道開業以来、これまで輸送実績・営業成績ともに堅調に推移しており、前年度に累積損失が解消しました。一方で、TX建設に要した多額の債務を抱えるなどの財務上の課題も引き続き有しています。こうした中、前年度までに「守谷3事業※」を完了するなど、鉄道事業を持続的、安定的に遂行するための基盤を整えてまいりましたが、開業後10年以上が経過し、今後は、設備更新投資や、利用者の増加・社会ニーズの変化に伴うサービス改善投資の増加が見込まれています。さらに、人材面ではベテラン社員から若い世代への世代交代が進んでいる状況です。(※総合基地入出庫線複線化、守谷駅追越設備新設、車体更新場新設)

こうした状況を踏まえ、今般、当社が経営の新たな“ステージ”に入り、その最初の基礎固めの期間にある、という認識のもと、「堅実な事業運営と次なる飛躍への基礎固め ～地域とともに発展するTXの新たなステージ～」をテーマとする中期経営計画を策定しました。この計画での基本方針は、「安全で安心な鉄道輸送を確固たるものとします」、「充実したサービスの提供により、沿線地域の発展に貢献します」、「持続的な成長を支える経営基盤の強化を図ります」とし、この基本方針のもとで各事業に取り組んでまいることとしております。

主な取組として、安全輸送面では、ホームドアセンサーの改良や混雑駅のホーム延伸工事など一層のホームの安全性向上を図るほか、鉄道設備等の保安度・信頼性向上等を進めてまいります。また、サービス面では、新型車両5編成の導入をはじめとした輸送力増強対策(「25本化事業」)などを進めてまいります。このほか、関連事業の強化や現場組織体制の強化などの持続的な成長に向けた経営基盤の強化を図ってまいります。これらの事業実施にあたって3年間で300億円の設備投資を計画しています。

本計画最終年度の数値目標

当面は当社沿線の開発が引き続き進展し、人口も増加することが見込まれます。このため、2020年度の一日平均乗車人員は、40万人の見通しです。これらを踏まえ、経営指標の数値目標は、以下のとおりとしました。併せて2020年度での12期連続の経常黒字を目指してまいります。

経営指標	2017年度 実績	2020年度 目標
営業収益	448億円	484億円
営業利益	80億円	105億円
経常利益	61億円	77億円

本計画につきましては、別冊の通りです。なお、参考として、「つくばエクスプレス 平成30年度事業計画」(平成30年3月)も添付しております。

別冊・事業計画は <http://www.mir.co.jp/company/plan.html> をご覧ください。